
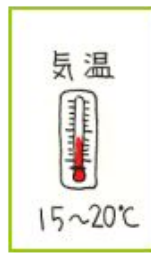


お花の栽培シリーズ「ナデシコ」		
2006年8月	葉月(はづき)・桂月(けいげつ)・壮月(そうげつ)・仲秋(ちゅうしゅう)・雁来(がんらい)・秋風月(あきかぜつき)	●炎天が つづく時期
<p>●日本の夏は、熱帯並みの暑さになり、しかも 日照時間が長くなるので 夜まで暑さが残ります。これが「熱帯夜」です。寝苦しい日が 続きます。</p> <p>●強い直射日光、高い気温、それにともなう水分の不足、そのうえ 舗装面や壁面の照り返し・・・など 植物にとっても 酷な時期です。</p>		
庭木の作業	・高温乾燥期にはいるので、植え替えや 手入れは行いません。中下旬になると 再び 害虫の発生が始まるので 早めに防除します。	
草花の作業	・草取りと 乾燥したときの「水やり」が仕事です。 ・ダリア・サルビア・マリーゴールドなどは、秋の花を 立派に咲かせるためには、8月初め頃に 株を切り込んで 新芽を出させ、追肥をします。	
今月の誕生花	アスター、アマリリス、スイレン	
今月の花	<p>ヒマワリ 花言葉 / いつわりの富、にせ金貨、崇拜、敬慕、あなたはすばらしい、あなたを見つめる</p>	
	<p>コロンブスの新大陸発見後に ヨーロッパに伝えられた花です。当時は、この花の形状から、「インディアンの太陽」「ペルーの黄金の花」と呼ばれていました。ペルーでは 太陽信仰が とても盛んで、この花は非常に尊重され、神聖な花として あがめられていました。太陽の神殿の巫女たちは、黄金でつくられたヒマワリの形の冠を かぶっていたそうです。これらが、スペインに奪われたことから、「いつわりの富」「にせ金貨」という花言葉ができました。</p> <p>ヒマワリが現れるまでは、太陽の花といえは キンセンカのことでした。初めは「大きいほうの太陽の花」とか「インディアンの太陽の花」などといって キンセンカと区別していましたが、太陽の花といえは ヒマワリをさすようになりました。</p>	
	<p>原産地は北アメリカ。キク科ヒマワリ属の1年草。草丈は20～300cm。開花時期は周年。最盛期は6～8月。葉の形状は、小型の線形か 先のとがった大きな長楕円形または楕円形葉、長い葉柄、縁に鋸葉、互生、短剛毛または軟毛が密生。花色は、黄・オレンジ・茶。英名コモン・サンフラワー (Common sunflower)。別名 日車(ひぐるま)、天竺葵、日輪草</p>	<p>花束にするときは、花卉の傷んでいない、心花に花粉のでていないものを選びましょう。</p>

お花の栽培シリーズ

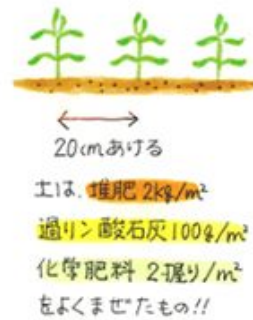
今月の花

ナデシコ



ナデシコ類は、品種が非常に多いのが特徴です。
管理は さほど難しくはありません。日当たりと風通しのよい場所で育てます。
ナデシコは、冬の寒さに当たることで花茎を伸ばして花をつける性質があります。
鉢植えても 室内にはいれず、鉢ごと土に埋め込んだり、軒下など霜の当たらない場所に置いて越冬させます。
水やりは、1年間をとおして 土の表面がかわいたらやるようにしましょう。

●種まきの やり方

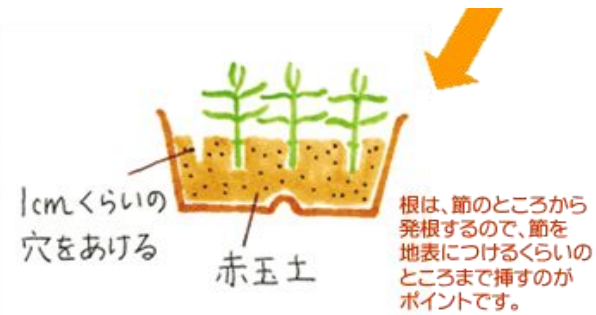
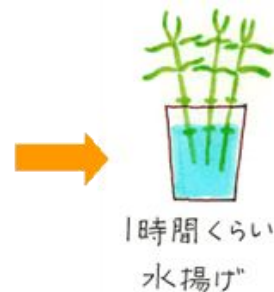


種をまいたら、日よけをしてやる・・・。

芽がでたら、植え替えます。

●挿し木の やり方

ナデシコの株が古くなり、花が少なくなってきたら、挿し木をして 株を更新してやりましょう。



●年間スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
状況			花期									
置き場所	屋外の日当たりのよい場所						屋外の半日陰 霧地栽培は 日よけをする		屋外の日当たりのよい場所 ※室内にま取り込まず霜よけ程度で越冬させる			
水やり	表土が乾いたら与える (5~6日に1回)		表土が乾いたら与える (2~4日に1回)			表土が乾いたら与える (1日に1回)		表土が乾いたら与える (2~4日に1回)				
肥料				元肥 ⊙		※月2回、液肥を与える			元肥 ⊙			
病気害虫	アブラムシの防除に月1~2回 薬剤を散布する											
作業	霜よけ		種まき<ベニナデシコ> 植えつけ<ベニナデシコ>		種まき		挿し木		植えつけ		霜よけ	